

井尻 B 遺跡 31

—第 53 次調査報告—

2024

福岡市教育委員会

井尻 B 遺跡 31

—第 53 次調査報告—



遺跡略号：IGB-53

調査番号：2206

2024

福岡市教育委員会

序

福岡市は玄界灘を介して大陸・半島と深い関係にあり、古代より双方の交流が絶え間なくおこなわれてきました。市内には埋蔵文化財をはじめとした重要な文化財が数多く残されており、近年の著しい都市化により失われるこれらを後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、共同住宅建設に伴う井尻B遺跡第53次発掘調査について報告するものです。この調査では中世の地下式土坑や溝、近世の溝が発見されました。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和6年3月22日

福岡市教育委員会
教育長 石橋 正信

例言

1. 本書は福岡市教育委員会が南区井尻5丁目の共同住宅建設に伴い、令和4（2022）年4月11日から6月28日に発掘調査をした井尻B遺跡第53次調査の報告書である。
2. 遺構の実測・写真撮影は三浦萌が行った。
3. 遺物の実測は三浦、野村美咲が行った。
4. 遺物の写真撮影は三浦が行った。
5. 製図は三浦、林由紀子が行った。
6. 本書に掲載した方位はすべて磁北である。
7. 本書に掲載した座標は世界測地系である。
8. 本書に使用した遺構略号はSE＝井戸、SD＝溝、SK＝土坑、SP＝ピット、SX＝不明である。
9. 本書に関わる図面・写真・遺物は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される。
10. 本書の執筆・編集は三浦が行った。

遺跡名	井尻B遺跡	調査次数	53次	調査略号	IGB-53
調査番号	2206	分布地図図幅名	25 井尻	遺跡登録番号	0090
申請地面積	1113.68 m ²	調査対象面積	543.33 m ²	調査面積	351.29 m ²
調査期間	令和4年4月11日～令和4年6月28日			事前審査番号	2021-2-1115
調査地	福岡市南区井尻5丁目344-1、352-4、352-6、353-2				

本文目次

I. はじめに・・・・・・・・・・	1	3. 遺構と遺物・・・7	
1. 調査に至る経緯・・・1		3-1. 中世	
2. 調査の組織・・・1		(1) 地下式土坑・・・7	
II. 遺跡の立地と歴史・・・・・・・・	2	3-2. 近世	
III. 調査の記録・・・・・・・・・・	5	(1) 土坑・・・9	
1. 調査の概要・・・5		(2) 溝・・・9	
2. 基本層序・・・5		(3) 小穴・・・14	
		IV. まとめ・・・・・・・・・・	15

挿図目次

図1. 周辺遺跡分布図 (1/25000)・・・	3	図10. SK005 出土遺物実測図 (1/3)・・・	10
図2. 調査地点位置図 (1/2500)・・・	4	図11. SD001・021・023 遺構実測図 (1/100)・・・	11
図3. 調査区位置図 (1/500)・・・	5	図12. SK001・021 土層図 (1/60)・・・	11
図4. 遺構配置図 (1/100)・・・	6	図13. SD001 出土遺物実測図 (1/3)・・・	12
図5. SK007 遺構実測図・土層図 (1/40)・・・	7	図14. SD024・034 遺構実測図 (1/60)・・・	13
図6. SK007 出土遺物実測図 (1/3)・・・	8	図15. SD024・034 土層図 (1/40)・・・	13
図7. SK020 遺構実測図 (1/30)・・・	8	図16. SD024 出土遺物実測図 (1/3)・・・	14
図8. SK020 出土遺物実測図 (1/4)・・・	9	図17. SP019 出土遺物実測図 (1/3)・・・	14
図9. SK005 遺構実測図 (1/30)・・・	10		

図版目次

図版1	1. I区調査区全景 (東から)	2. III区調査区全景 (北から)
図版2	1. II区調査区全景 (東から)	2. IV区調査区全景 (北から)
図版3	1. SK007 (北から)	2. SK007 土層 (南から)
図版4	1. SK020 (北から)	2. SK020 土層 (南から)
図版5	1. SD001・021 (北から)	2. SD021・023 (南から)
図版6	1. SD001・021 東壁土層 (西から)	2. SD001・021 中央ベルト土層 (東から)
図版7	1. SK005 (南から)	2. III区西壁土層
図版8	出土遺物写真	

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

令和4(2022)年1月24日付けで、個人より福岡市南区井尻5丁目344-1、352-4、352-6、353-2(敷地面積:1113.68㎡)における共同住宅の建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会が提出され、同日に受理した(事前審査番号:2021-2-1115)。

これを受けて経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である井尻B遺跡に含まれていることから、同年2月16日に申請地で確認調査を行った。その結果、地表下60cmで遺構を確認した。この結果をふまえて申請者と協議を重ねた結果、令和4(2022)年4月15日に委託者を個人、受託者を福岡市として発掘調査委託契約を結び、遺跡の破壊が免れない共同住宅建設部分の発掘調査を実施することとなった。

本調査は令和4(2022)年4月11日～6月28日まで行い、報告書作成の整理作業は令和5(2023)年度に行った。

2. 調査の組織

調査主体:福岡市教育委員会

(発掘調査:令和4年度)

調査総括:	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課 課長	菅波正人
	同課調査第2係長	井上繭子
庶務:	文化財活用課管理調整係	内藤 愛
事前審査:	埋蔵文化財課事前審査係	神 啓崇
調査担当:	埋蔵文化財課調査第2係	三浦 萌

(整理・報告:令和5年度)

整理・報告総括:	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課 課長	菅波正人
	同課調査第2係長	井上繭子
整理・報告庶務:	文化財活用課管理調整係	内藤 愛
整理・報告担当:	埋蔵文化財課事前審査係	三浦 萌

Ⅱ．遺跡の立地と歴史

福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた地域には、花崗岩風化礫層を基盤とし、その上に阿蘇山の噴火によるA s o - 4火砕流によってつくられた八女ローム層と鳥栖ローム層が堆積し、形成された春日丘陵とよばれる低丘陵が存在している。この中位段丘上には市内の遺跡では比恵遺跡群や那珂遺跡群、板付遺跡、市外で「奴国」とされる須玖遺跡群などが立地している。今回調査の対象となった井尻B遺跡は、この丘陵上に位置している。

井尻B遺跡は古くは青柳種信の『筑前国続風土記拾遺』に記載がみられ、那珂郡井尻村の条に「銚の鎔範」や「大塚」、「古瓦多く出、昔大寺など有りし」と記されている。大正時代には九州帝国大学の中山平次郎氏によって調査されている。

井尻B遺跡の南部では旧石器時代の包含層が確認されており、第2次調査と第1・2次調査では細石刃やナイフ形石器などが出土している。特に第2次調査では細石刃文化期とナイフ形石器文化期の石器群が良好な状態で出土している。弥生時代中期になると遺構が増加し、集落が大規模なものとなってくる。北部の1・7次調査地点を中心に住居跡、貯蔵穴などがみられるようになる。須玖岡本遺跡を中心とした奴国の最盛期後期になると、丘陵全域に集落遺構が密な広がりを見せ、井尻B遺跡は一大拠点集落としての様相を示すようになる。その後、古墳時代初めを境として、密な広がりをみせた集落遺構は希薄になっていく。また墓地遺構としては第2次調査地点周辺で低墳丘墓や石蓋土壙墓、第3・4次調査地点で方形周溝墓が確認されている。また第2次調査地点と第5次調査地点では井尻B1号墳が確認されている。墳丘は円墳と考えられ、周溝からは円筒埴輪をはじめとした埴輪や須恵器などの遺物が出土している。また1次調査においても円筒埴輪や朝顔形埴輪などといった埴輪が出土しており、古墳の存在が指摘できる。6世紀後半から7世紀にかけて、集落遺構が再び展開をしていくが、全盛期と比較すると希薄である。古代になると1・3・17次調査地点で百済系単弁瓦をはじめとする丸瓦や平瓦が、11次調査では「寺」とヘラ描きされた須恵器皿が出土しており、「井尻廃寺」の存在が推定されている。これ以降の古代末や中世・近世の遺構は希薄になるものの、北部に位置する五十川遺跡ではその時期の遺構がみられる。

今回の調査地点は井尻B遺跡の中央、線路を挟んで南側に位置している。井尻B遺跡は調査地点が偏っており、北側と南側、中央部でも線路を挟んで北側で多くの調査が行われている。今回の調査地点周辺での調査履歴は少なく、東側で19次調査が、南側で41次調査が行われている。

【参考文献】

- ・福岡市史編集委員会 2020『新修 福岡市史』



- | | | | | |
|-----------|-------------|------------|-----------|-----------|
| 1. 井尻B遺跡 | 2. 比恵遺跡群 | 3. 那珂遺跡 | 4. 山王遺跡 | 5. 五十川遺跡 |
| 6. 東那珂遺跡 | 7. 井尻A遺跡 | 8. 横手遺跡 | 9. 寺島遺跡 | 10. 笠拔遺跡 |
| 11. 井尻C遺跡 | 12. 須玖・岡本遺跡 | 13. 諸岡A遺跡 | 14. 諸岡B遺跡 | 15. 笹原遺跡 |
| 16. 三筑遺跡 | 17. 那珂君休遺跡 | 18. 板付遺跡 | 19. 高畑遺跡 | 20. 麦野A遺跡 |
| 21. 板付東遺跡 | 22. 雀居遺跡 | 23. 下月隈D遺跡 | | |

図1. 周辺遺跡分布図 (1/25000)

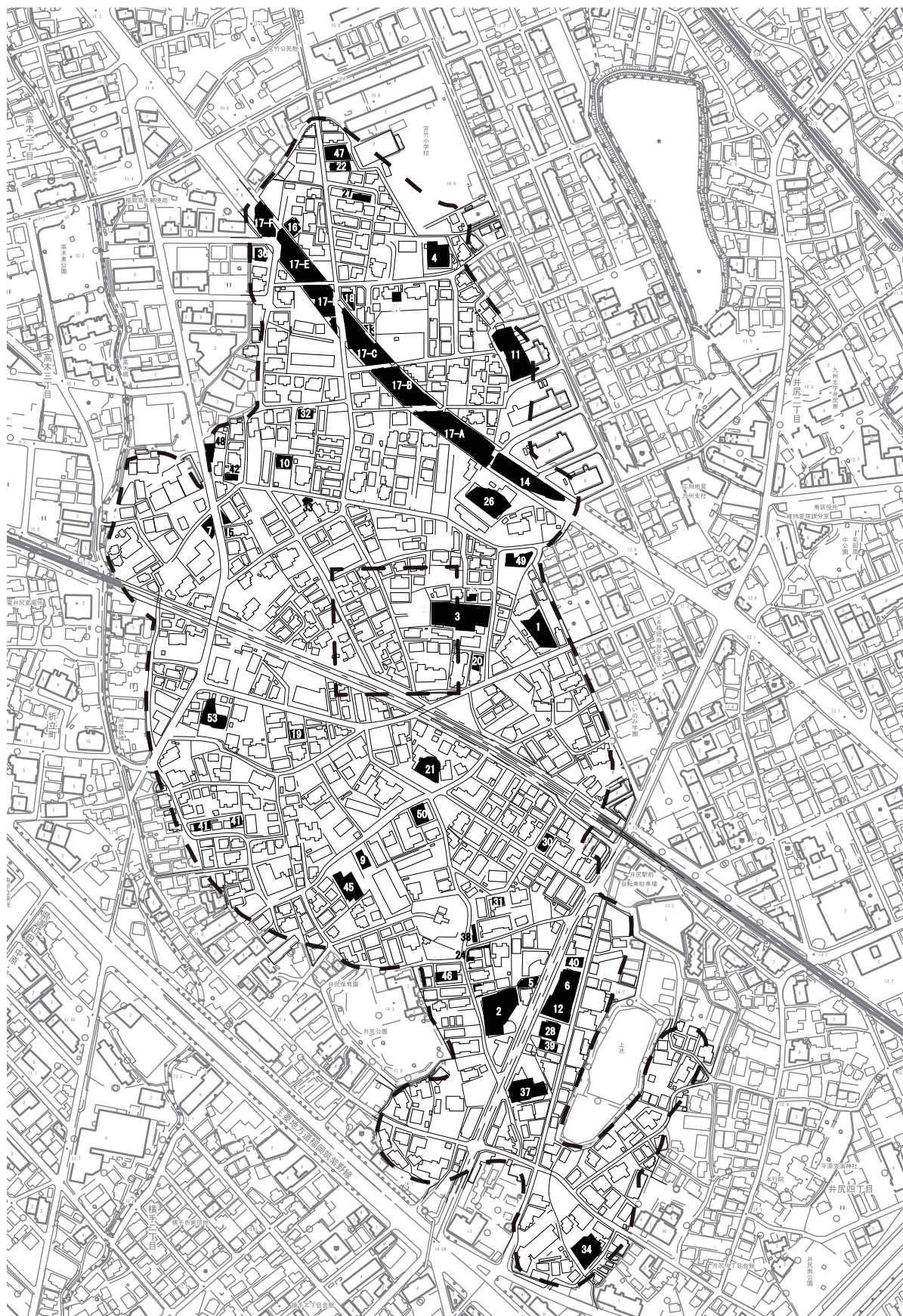


図2. 調査地点位置図 (1/5000)

Ⅲ. 調査の記録

1. 調査の概要

井尻B遺跡は春日丘陵上に位置する。53次調査地点は遺跡の南部に位置している。

試掘調査ではトレンチを3本設定し、GL-60～90cmで地山である鳥栖ロームを検出し、この上面で遺構を確認している。本調査ではこの面まで重機によって掘削し、人力で遺構検出及び掘削を行った。排土処理の関係上、Ⅰ～Ⅲ区にわけて調査を行っている。調査時の地表は南部で標高12.5m前後、北部道路面付近で11.5m前後。遺構検出面は標高11.0～11.7mであり、南から北にかけて傾斜する。Ⅱ区（調査区南東側）は攪乱や削平が激しく、遺構はあまり確認されず、主にⅠ・Ⅲ区で確認されている。確認された遺構は中世の地下式土坑、土坑、溝、近世の土坑、溝、井戸などである。井尻B遺跡において中世・近世の遺構がまとまった形で確認されることは珍しく、当遺跡の当該期の様相の一端を明らかにできた。

2. 基本層序

調査区は南から北へむかって下がる地形をとる。南側では地表面から30cm程の厚さの真砂土の下、標高11.7cmほどまで近代、もしくは現代の埋土である。遺構が検出されるローム面までは基本的に近現代の埋土であり、北部の一部に黒色土が残っている。土層図は各遺構の土層図を参照されたい。



図3. 調査区位置図 (1/500)

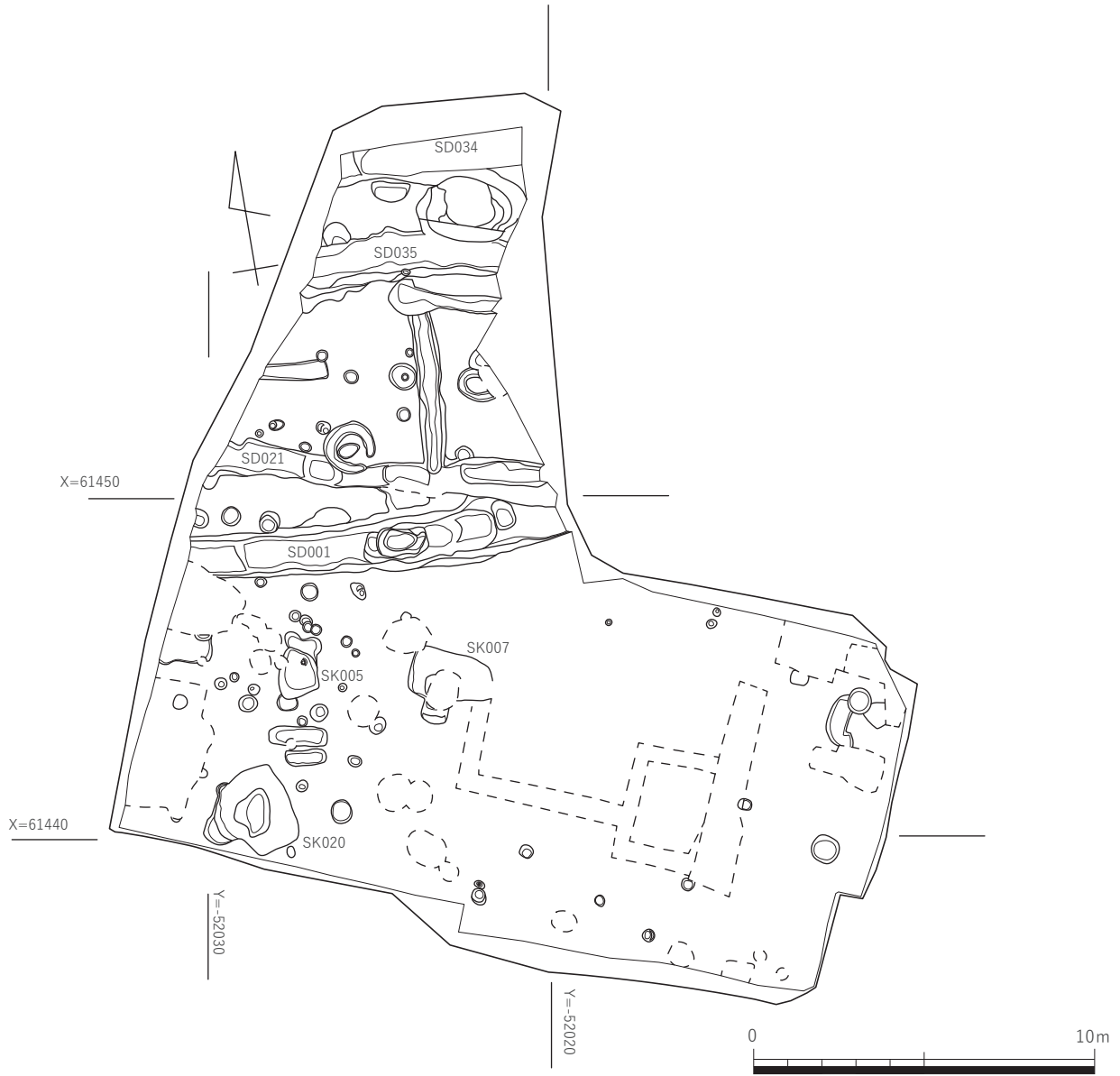


图 4. 遺構配置図 (1/100)

3. 遺構と遺物

前述したように、時期としては中世と近世の遺構、遺物が主に確認された。このうち近世の遺構は調査区の北側（Ⅲ区）で多く確認されている。

3-1. 中世

地下式土坑2基を確認した。

(1) 地下式土坑

調査区南部（Ⅰ区）で地下式土坑を2基確認した。土層図から2基とも天井が崩落した際に、その崩落土によって埋没したものと推測でき、その後土坑上部が削平されたものとみられる。2基ともに確認された遺物量は少ない。

SK007 (図5)

調査区南部、やや中央付近で確認した。長軸2.44m×短軸2.16m、深さ約1.06mの規模である。南部に入口とみられる竪穴が確認された。竪穴の上端幅73～76cm。中間端が上端と下端よりも外側

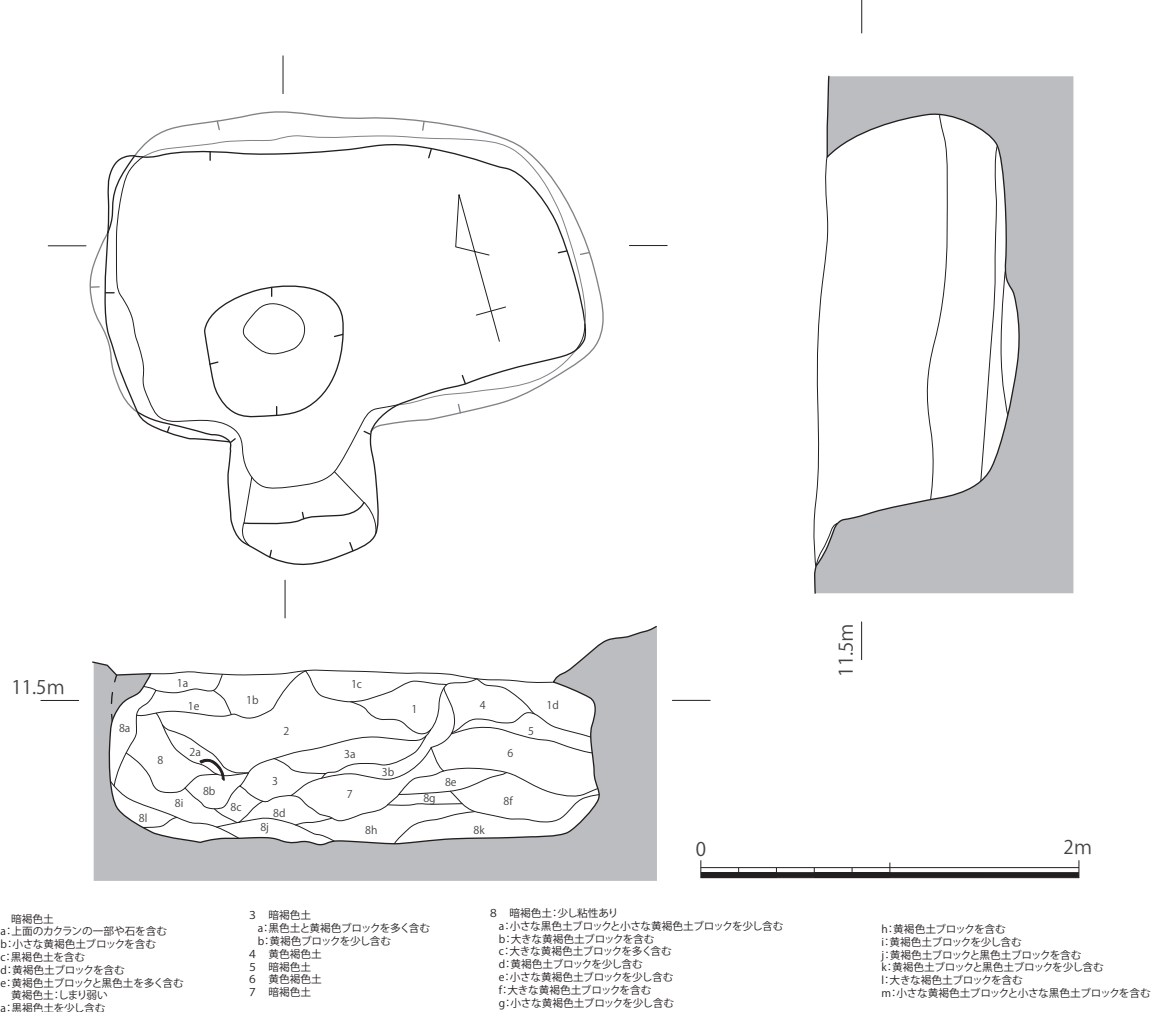


図5. SK007 遺構実測図・土層図 (1/40)

にえぐりこむような形態をとる。また7層（図5参照）までは地山と考えられる黄褐色土の大きなブロックを含んでおり、地下式土坑の天井部分が崩落し、土坑を埋没させたものと考えられる。遺物は宋代の白磁碗を一つ確認したのみである。出土遺物（図6）

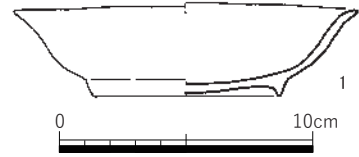


図6. SK007 出土遺物実測図（1/3）

1は宋代の白磁碗である。口径13.6 cm、高台径7.4 cm、器高3.4～3.6 cmで完形である。若干歪んだ形態をとる。釉色は乳白色。高台端は削られており、砂が付着している。崩落土下で確認した。

SK020（図7）

調査区南部壁際で確認した。長軸2.34 m×短軸2.14 m、深さ約0.87 mの規模である。西側に入口とみられる竪穴がある。竪穴の上端幅76 cm前後。SK007と同様、6層（図7参照）まで地山とみられる褐色土（黄褐色土）ブロックを含んでいることから、地下式土坑の天井部分の崩落土であると考えられる。竪穴部分から埋没したものか。底面付近で石臼の破片を確認した。

出土遺物（図8）

2は石臼の破片である。全体の3分の2にあたり、復元すると径は約68 cmになると推測できる。厚さ16 cm。石材は花崗岩であり、摺り面に擦過痕がみられる。

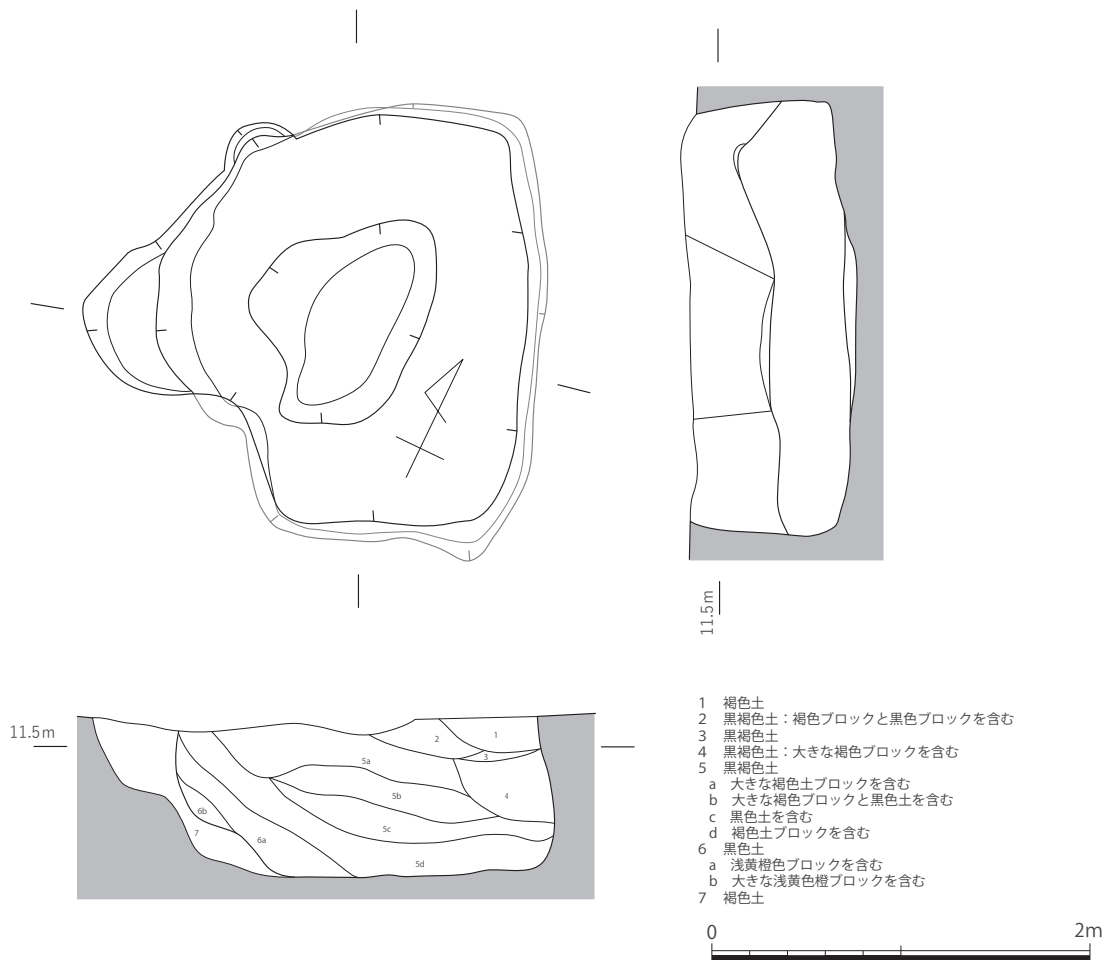


図7. SK020 遺構実測図（1/40）

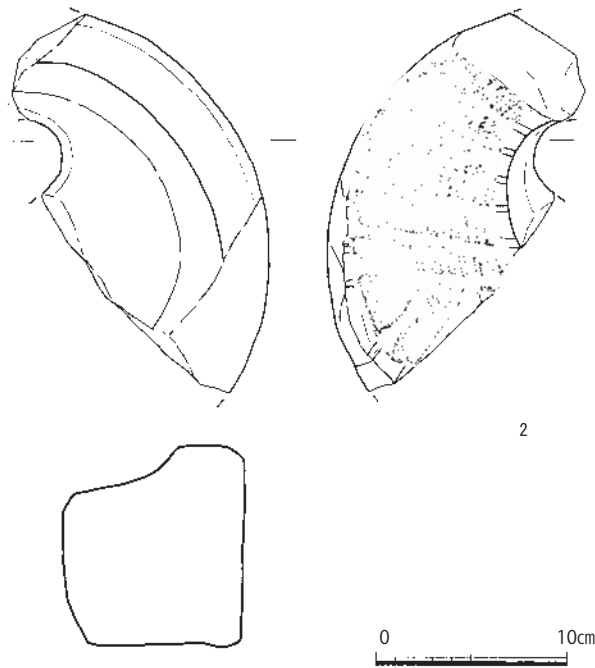


図8. SK020 出土遺物実測図 (1/4)

3-2. 近世

調査区南東部で土坑1基、北部で溝2条、また個別報告はしないものの、井戸（未完掘）1基を確認している。

(1) 土坑

SK005 (図9)

調査区南部で確認した長軸1.48m×短軸1.02m、深さ26cmの規模の土坑である。底面付近で唐津焼の皿を確認した。

出土遺物 (図10)

3は唐津焼の皿である。唐津焼の中でも時期は新しく、18世紀まで下る可能性がある。復元口径22.2cm、高台径6.8cm、器高5.8cm。高台端部と内面の一部以外は釉が施されており、胴部中段あたりから外側に屈曲する。

(2) 溝

調査区中央部(Ⅱ区)から北部(Ⅲ区)で溝を5条検出している。SD023以外は東西方向に調査区を横断する。SD001とSD021には中世以前の遺物も混在している。またSD024とSD035は平行して走っている。両溝ともにSE033にきられている。

SD001 (図11・12)

調査区中央付近を東西方向に横断する溝である。幅1.2～2.0m、深さ(最深部)約2.1m。東部をSD021にきられている。調査区で発見された溝5条の中では一番古い時期のものであると考える。断面は東壁では方形をとるものの、中央ベルト付近では台形に近い形態をとる。中央部が一番深く、

両端から段落ちするように下がっている。またこの底面で湧水した。須恵器や白磁碗、青磁碗といった古代、中世の遺物も混在している。

出土遺物（図13）

4は須恵器のハソウである。最大胴部径8.8cm、残存高6.3cm。5は土師器の坏である。復元口径11.6cm、底部径6.8cm、器高2.3cm。底面の調整は糸切り。6は龍泉窯系青磁碗の破片である。復元口径12.6cm、残存高4.7cm。蓮弁がみられ、釉は厚い。7は白磁碗の破片である。復元口径11.4cm、底部径6.0cm、器高3.1cm。口縁端部は削られている。復元するとSK007で出土した白磁碗と類似した形状になる。15世紀末から16世紀初めのものか。8は瀬戸天目の碗の破片である。復元口径10.8cm、復元底部径3.8cm、器高3.8cm。外面底部付近の調整はケズリ。9は青花の蓋である。口径3.9cm、受身部径6.5cm、器高1.2cm。中世前半か。10は陶器の皿である。唐津焼か。復元口径18.4cm、復元底径12.4cm、器高12.4cm。11は陶器の碗の底部片である。唐津焼。高台径4.5cm、残存高さ1.7～2.3cm。胎土目が残っている。

その他、図示できた資料以外にも近世の染付の破片や、すり鉢の破片などが出土している。

SD021（図11・12）

調査区中央付近を東西方向に横断する溝である。東側でSD001をきっている。幅0.7～1.3m、深さ1.0m。図示できる遺物はないが、近世の陶器片が多く出土した。

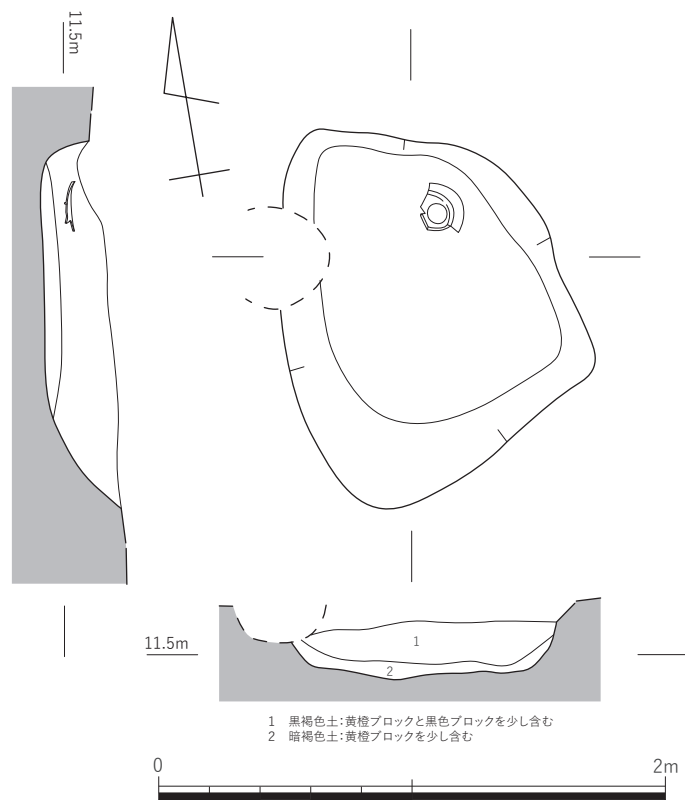


図9. SK005 遺構実測図（1/30）

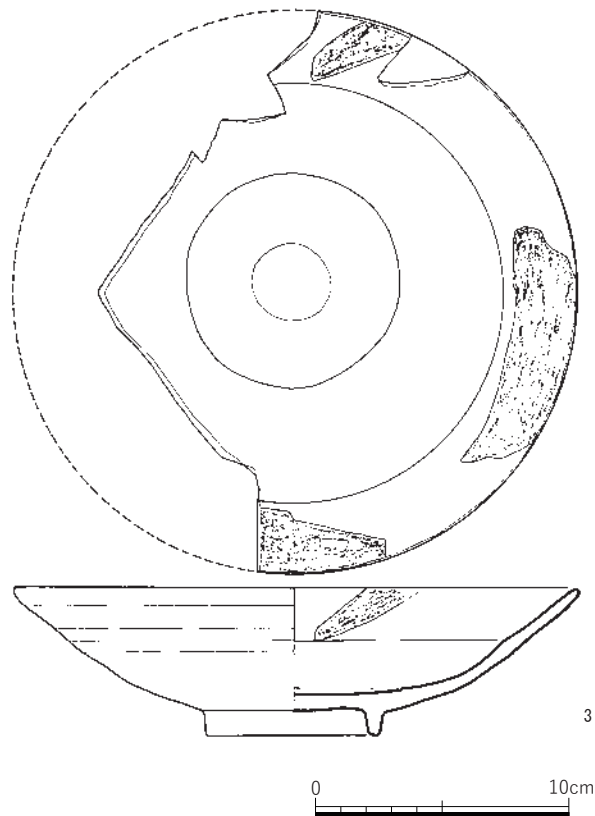


図10. SK005 出土遺物実測図（1/3）

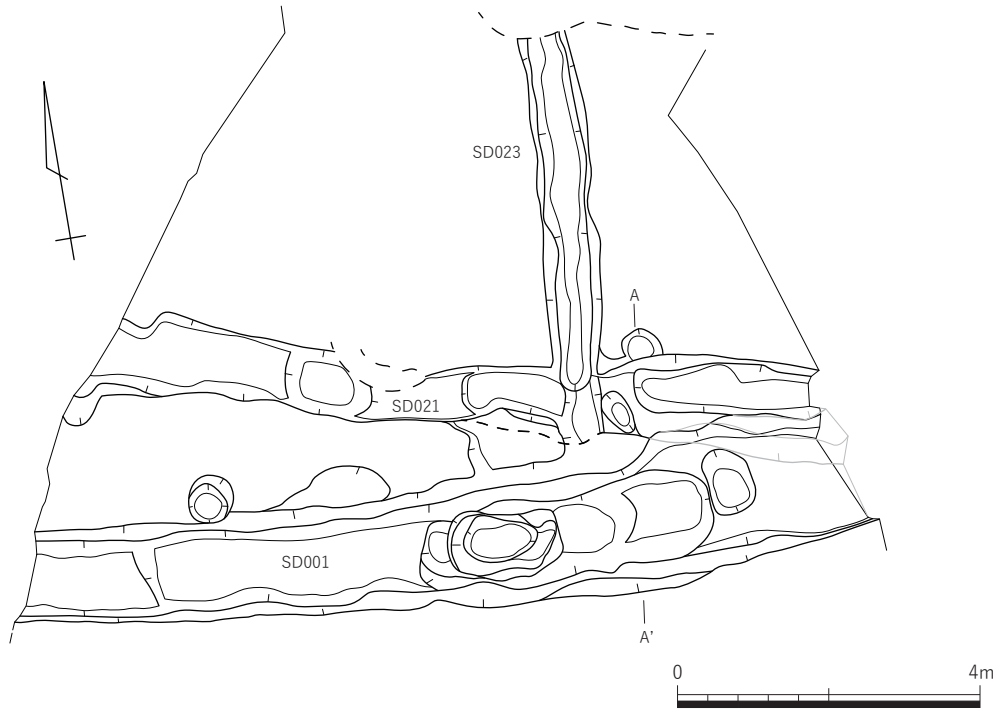
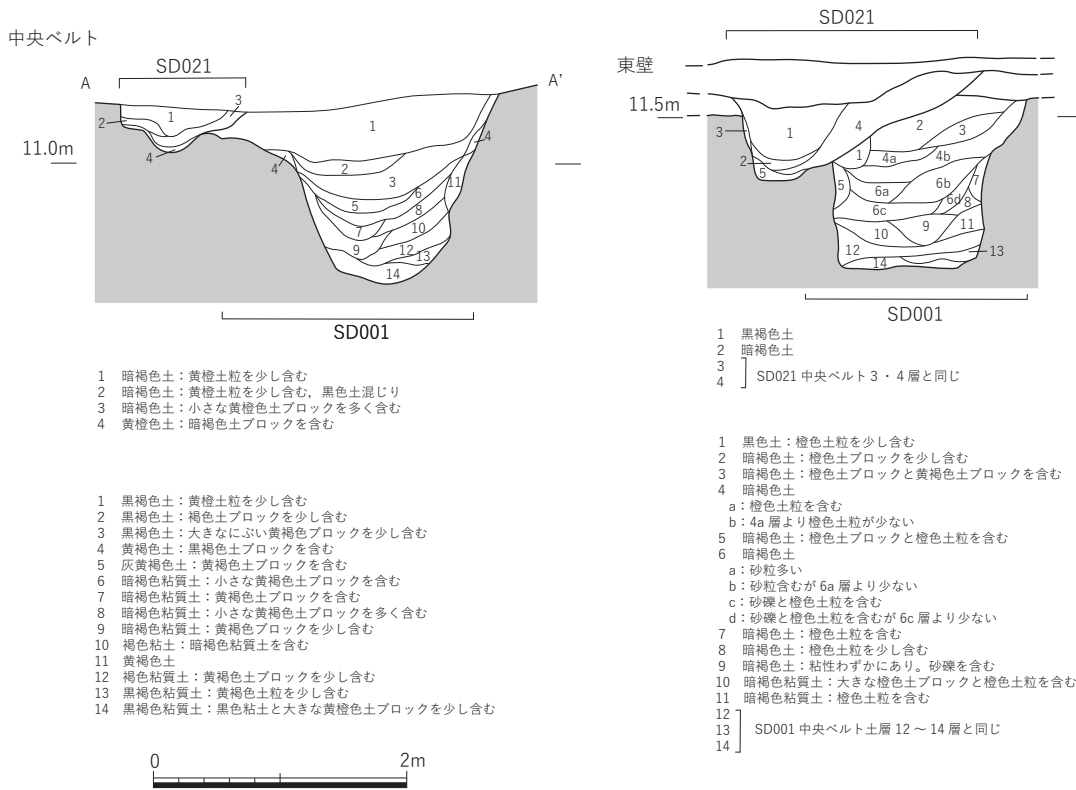


図 11. SD001・021・023 遺構実測図 (1/100)



- 1 暗褐色土：黄橙色土粒を少し含む
- 2 暗褐色土：黄橙色土粒を少し含む，黒色土混じり
- 3 暗褐色土：小さな黄橙色土ブロックを多く含む
- 4 黄褐色土：暗褐色土ブロックを含む

- 1 黒褐色土：黄橙色土粒を少し含む
- 2 黒褐色土：褐色土ブロックを少し含む
- 3 黒褐色土：大きなふい黄褐色ブロックを少し含む
- 4 黄褐色土：黒褐色土ブロックを含む
- 5 灰黄褐色土：黄褐色土ブロックを含む
- 6 暗褐色粘質土：小さな黄褐色土ブロックを含む
- 7 暗褐色粘質土：黄褐色土ブロックを含む
- 8 暗褐色粘質土：小さな黄褐色土ブロックを多く含む
- 9 暗褐色粘質土：黄褐色土ブロックを少し含む
- 10 褐色粘土：暗褐色粘質土を含む
- 11 黄褐色土
- 12 褐色粘質土：黄褐色土ブロックを少し含む
- 13 黒褐色粘質土：黄褐色土粒を少し含む
- 14 黒褐色粘質土：黒色粘土と大きな黄褐色土ブロックを少し含む

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 } SD021 中央ベルト 3・4層と同じ

- 1 黒色土：橙色土粒を少し含む
- 2 暗褐色土：橙色土ブロックを少し含む
- 3 暗褐色土：橙色土ブロックと黄褐色土ブロックを含む
- 4 暗褐色土
 - a：橙色土粒を含む
 - b：4a層より橙色土粒が少ない
 - c：砂礫と橙色土粒を含む
 - d：砂礫と橙色土粒を含むが6c層より少ない
- 5 暗褐色土：橙色土ブロックと橙色土粒を含む
- 6 暗褐色土
 - a：砂粒多い
 - b：砂粒含むが6a層より少ない
 - c：砂礫と橙色土粒を含む
 - d：砂礫と橙色土粒を含むが6c層より少ない
- 7 暗褐色土：橙色土粒を含む
- 8 暗褐色土：橙色土粒を少し含む
- 9 暗褐色土：粘性わずかにあり。砂礫を含む
- 10 暗褐色粘質土：大きな橙色土ブロックと橙色土粒を含む
- 11 暗褐色粘質土：橙色土粒を含む
- 12 } SD001 中央ベルト土層 12～14層と同じ
- 13 } SD001 中央ベルト土層 12～14層と同じ
- 14 } SD001 中央ベルト土層 12～14層と同じ

図 12. SD001・021 土層図 (1/60)

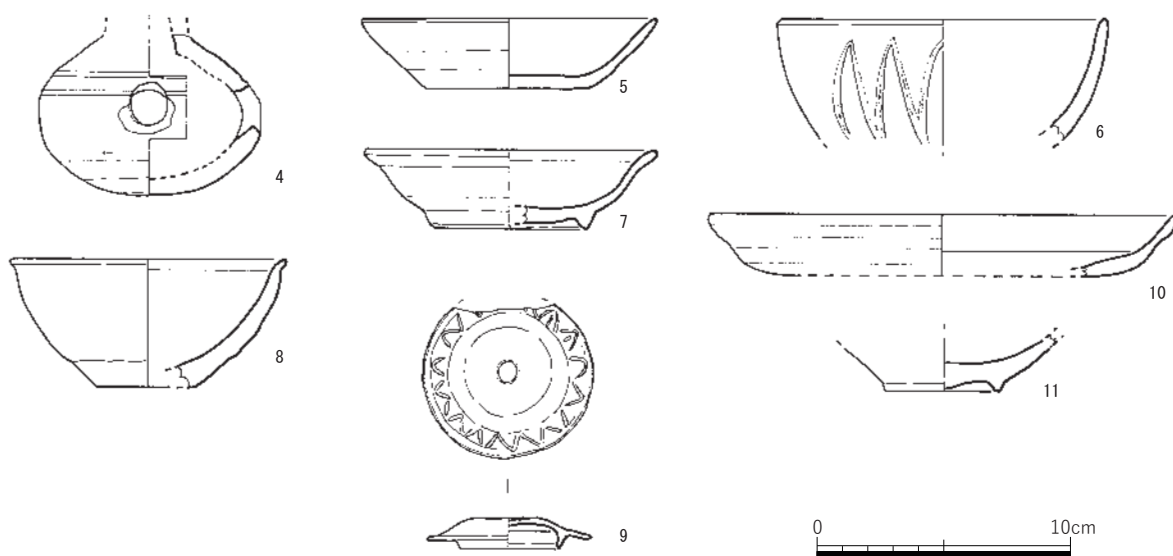


図 13. SD001 出土遺物実測図 (1/3)

SD023 (図11・12)

調査区を北から南に縦断する溝である。SD021をきっていることから溝3条の中で一番新しい時期のものである。図示できる資料はないものの、SD021と同じく近世の陶器片等を確認している。

SD024 (図14・15)

調査区北部を東西に横断する溝である。幅1.0～1.55 m、深さ50 cm。北辺の一部をSE033にきられている。出土遺物から、前述したSD001、SD021、SD023よりも後出するものである。出土した染付等から17世紀末のものか。

出土遺物 (図16)

12は青磁碗の高台片である。青磁碗を転用した瓦玉である。底径5.1 cm、残存高2.1～2.2 cm。胎土は精良。13・14は国産の小碗ある。13は復元口径8.7 cm、高台径3.3 cm、器高4.1 cm。14は復元口径8.9 cm、高台3.1 cm、器高4.6 cm。胴部は施釉しており、底部のみ胎土が露出している。15は染付碗である。復元口径10.0 cm、高台径4.2 cm、器高5.5 cm。胴部は施釉しており、底部のみ胎土が露出している。16は紅皿である。口径4.4 cm、高台径1.2 cm、器高1.4 cm。17は陶器の皿である。復元底径8.2 cm、残存高3.6 cm。18は陶器の瓶である。口径3.0 cm、頸部径2.8 cm、最大胴部径9.8 cm、残存高12.3 cm。19は陶器の瓶、もしくは徳利である。口径3.2 cm、頸部径3.1 cm、最大胴部径10.5 cm、残存高9.4 cm。20は磁器の皿である。復元高台径11.1 cm、残存高5.5 cm。21は陶器のすり鉢である。復元口径24.8 cm、復元底径11.1 cm、器高11.2 cm。22は素焼きの人形である。天狗か。最大長4.0 cm、最大幅2.7 cm。裏面に指圧痕がみられる。

SD035 (図14・15)

調査区北端を東西に横断する溝である。東部分で湧水したため、一部完掘にはいたっていない。SE033に南辺がきられている。また溝の北部上端は調査区外にあるため未検出である。残存幅1.35 m、深さ1.0 m。



図 14. SD024・034 遺構実測図 (1/60)

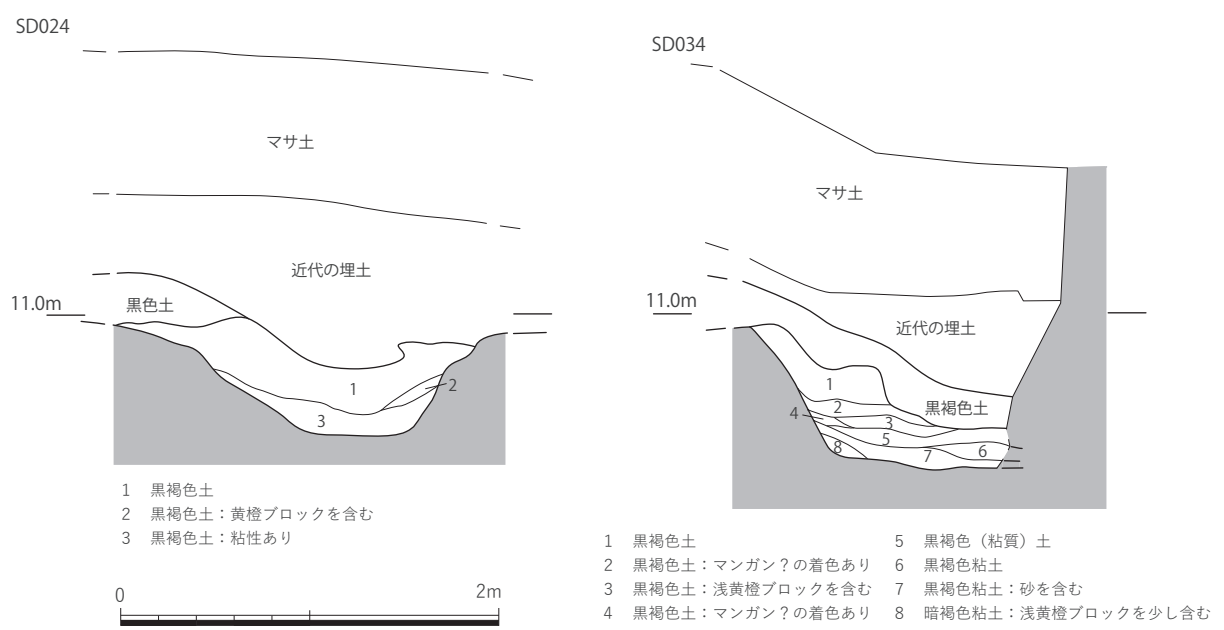


図 15. SD024・034 土層図 (1/40)

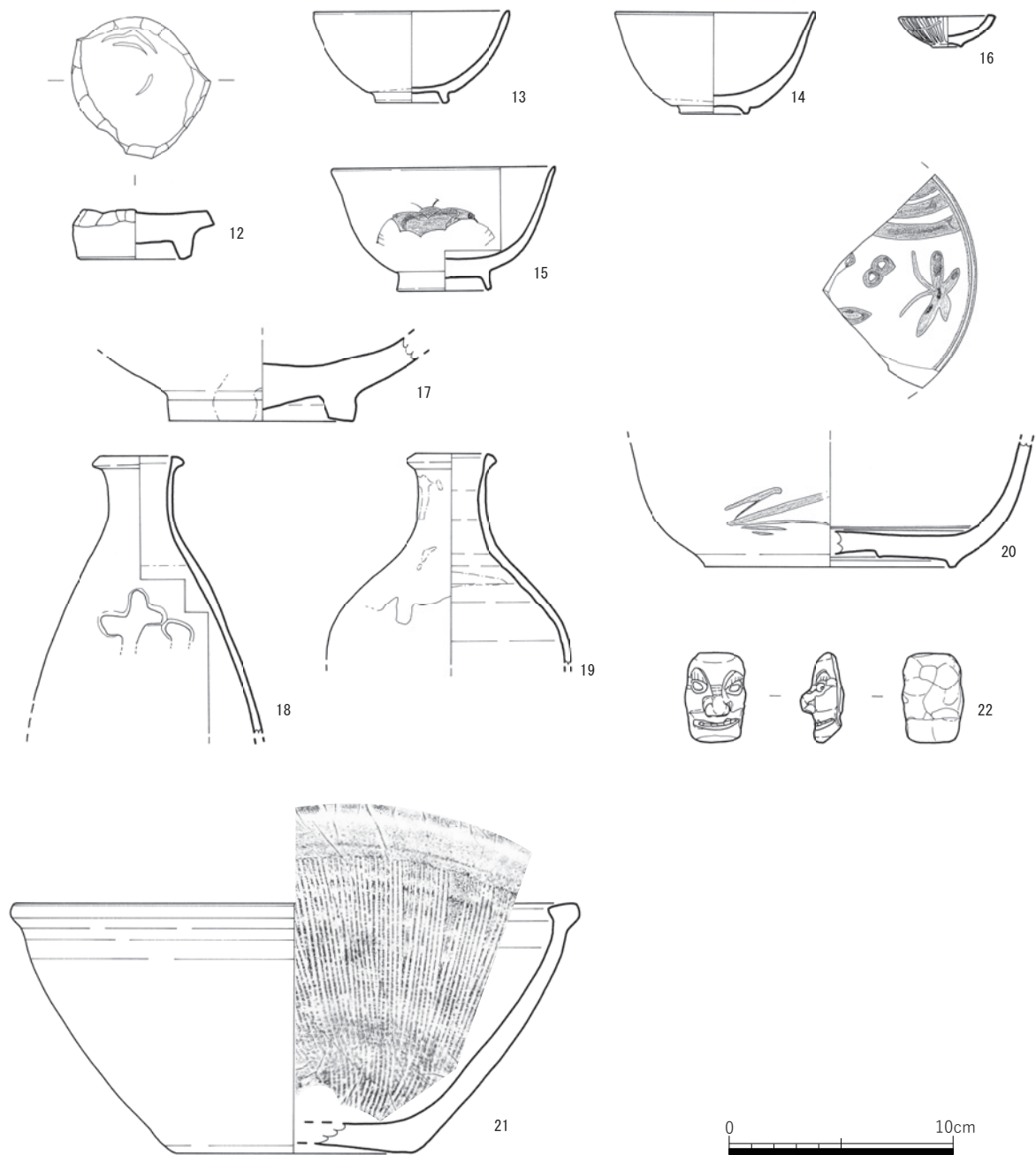


図 16. SD024 出土遺物実測図 (1/3)

(3) 小穴

出土遺物 (図 17)

23はSP019から出土した陶器の破片である。口径13.6 cm、底径12.6 cm、残存高5.3 cm。外面に工具痕が残り、被熱をしている。底部外面はハケ状工具でナデたあとに指ナデを施している。

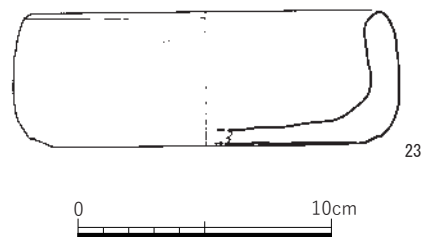


図 17. SP019 出土遺物実測図 (1/3)

IV. まとめ

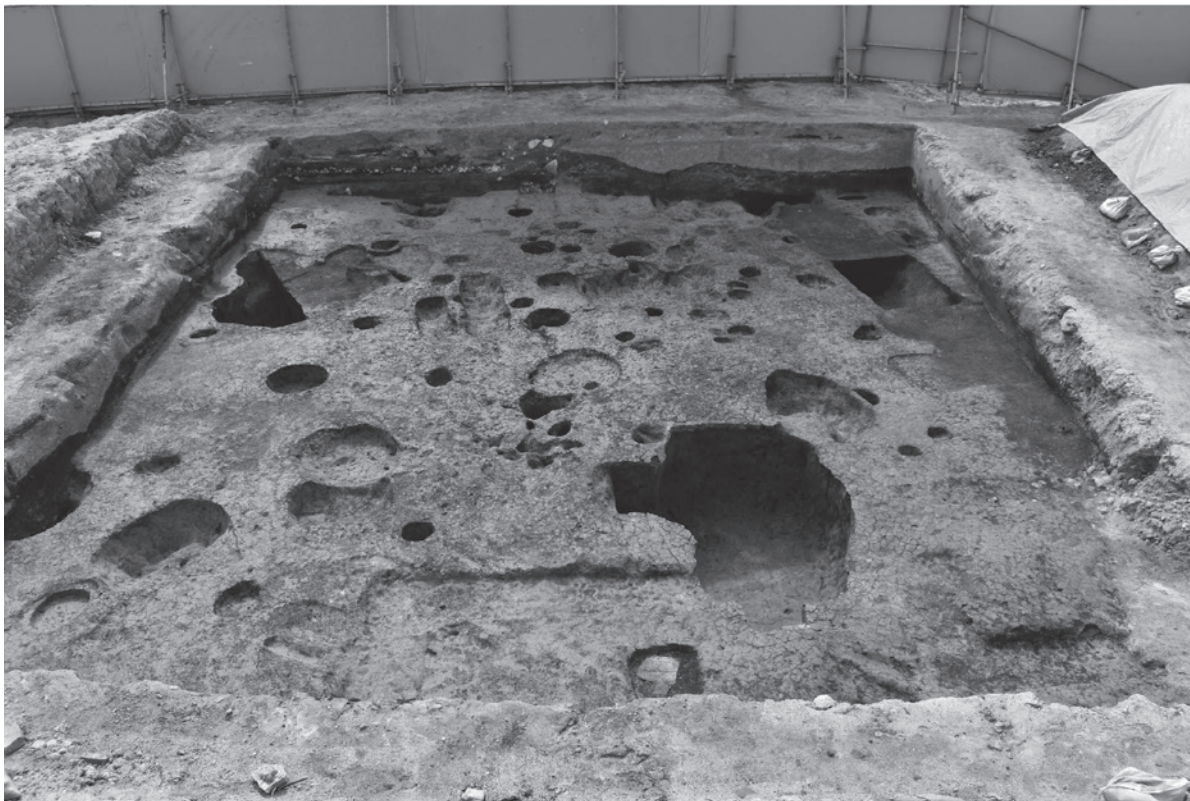
今回発見された遺構や遺物の主な時期は中世後半から近世である。

中世の遺構は調査区南部で発見された地下式土坑2基である。地下式土坑は貯蔵庫や埋葬施設等と考えられているが、今回発見したもの2基の用途については断定することが難しい。中世の居館跡である諸岡居館社を発見した諸岡B遺跡第14・17次調査でも、同様の地下式土坑が確認されていることから、貯蔵庫の可能性が高いだろうか。

また近世の遺構では溝5条と土坑1基が確認された。このうち、調査区の中央部で発見された溝(SD001)は周辺地域の字名に「屋敷」「向屋敷」などといったものが残っていることから、近世の居館にともなうものである可能性が考えられる。

いずれにせよ、井尻B遺跡において中世・近世の遺構がまとまって確認されるのは珍しく、当該期の集落の一端を知るうえで重要なものであるといえる。今後、周辺の調査によって当該期の井尻B遺跡の様子がより明らかになるだろう。

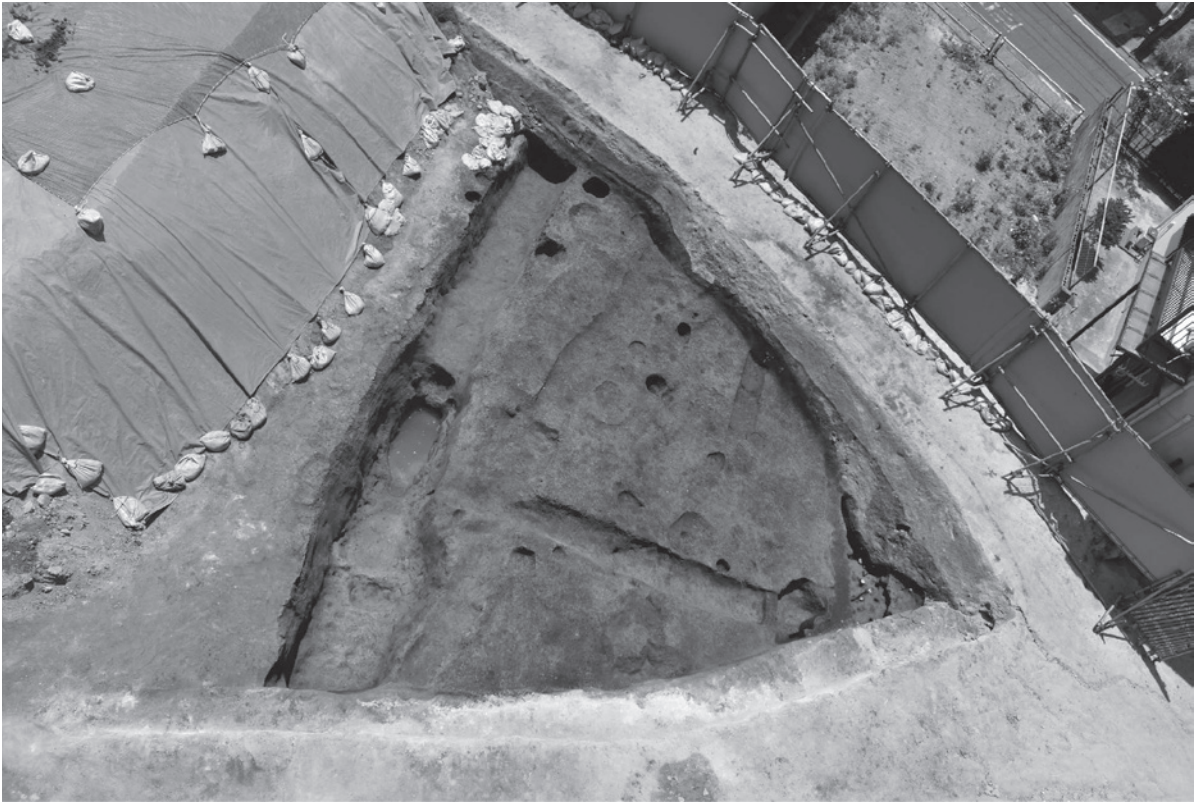
図版 1



1. I区調査区全景（東から）



2. III区調査区全景（北から）

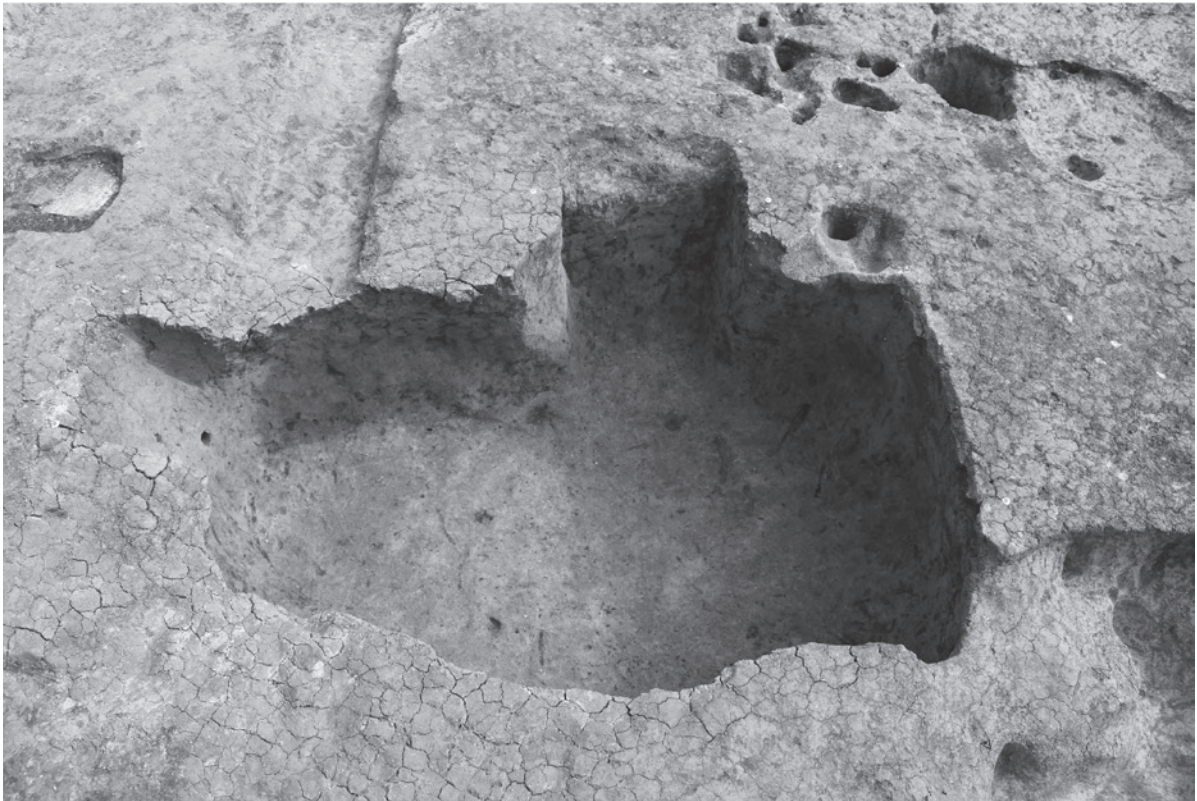


1. II区調査区全景（東から）



2. IV区調査区全景（北から）

図版 3



1. SK007 (北から)



2. SK007土層 (南から)



1. SK020 (北から)



2. SK020土層 (南から)

図版 5



1. SD001・021 (北から)



2. SD021・023 (南から)

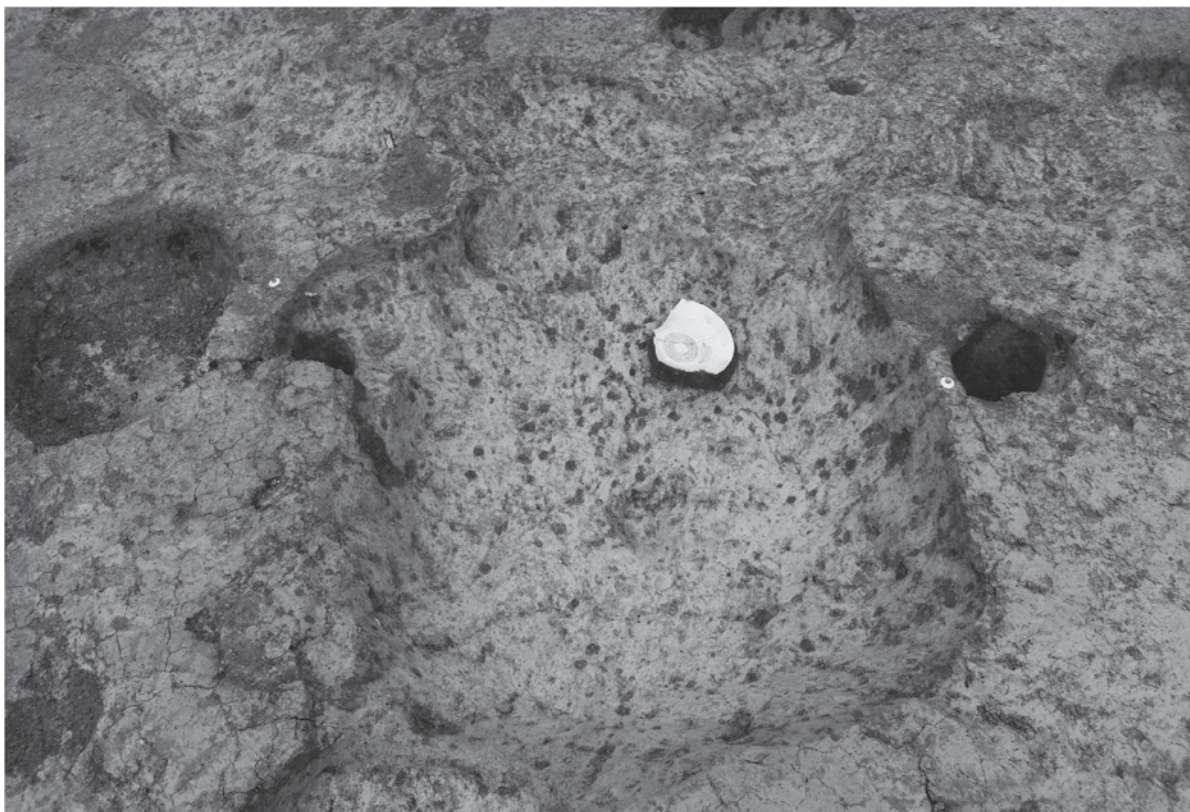


1. SD001・021 東壁土層 (西から)

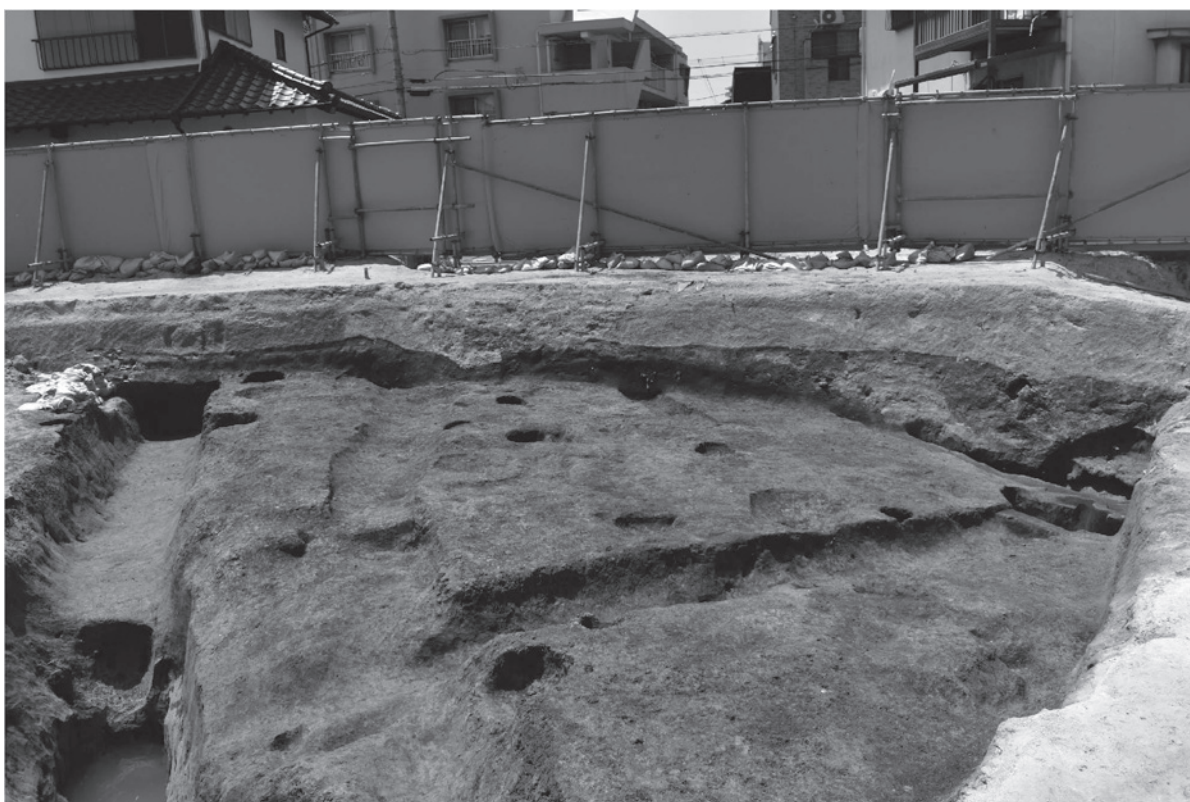


1. SD001・021 中央ベルト土層 (東から)

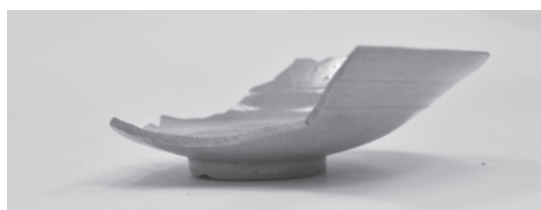
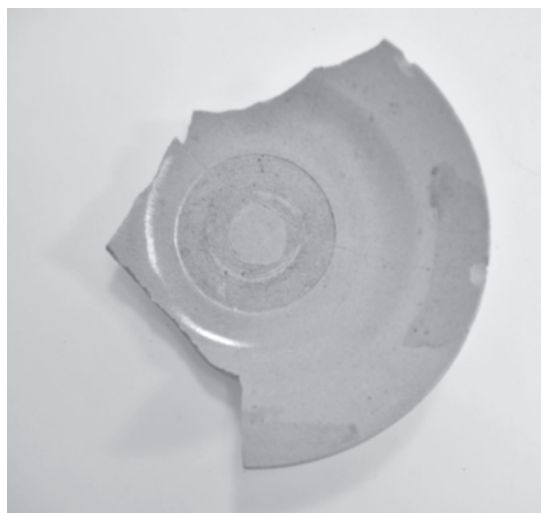
図版 7



1. SK005 (南から)

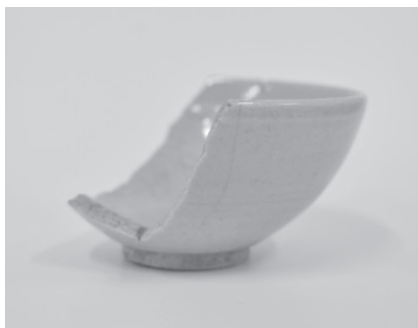


2. Ⅲ区西壁土層



1

3



14

13



15

22

報告書抄録

ふりがな	いじりびーいせき 31							
書名	井尻B遺跡 31							
副書名	—第53次調査報告—							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1496集							
編著者名	三浦 萌							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8番1号							
発行年月日	2024年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
いじりびーいせき 井尻B遺跡	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 みなみくいじり5ちょうめ 南区井尻5丁目 344-1, 352-4, 352-6, 353-2	40132	2638	33° 33'10.2"	130° 26'23.16"	20220411 ～ 20220628	351.29㎡	記録保存
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
井尻B遺跡	集落	弥生・古墳・古代	竪穴建物跡、土坑、 掘立柱建物、溝	弥生土器、須恵器、土師器、 瓦				
要約	<p>井尻B遺跡は那珂川と御笠川にはさまれた位置に存在する遺跡である。主な時代は旧石器から古代であり、遺跡内では「井尻廃寺」の存在が想定されている。53次調査地は本遺跡内で西側に位置する。今回発見された遺構の時代は主に中世後半と近世である。中世後半の遺構として主なものは、15世紀末から16世紀ごろの地下式土坑2基と溝1条である。地下式土坑からは明代の白磁碗が発見された。また溝は周辺の字に「屋敷」「向屋敷」など屋敷の記述がみられることから、居館にともなう濠である可能性がある。近世の溝は調査区の北端で発見された。本遺跡内で中世の遺構がまとまって発見されるのは珍しく、今後の周辺調査においても中世の遺構が発見される可能性が高い。</p>							

井尻B遺跡 31

第53次調査報告書

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1496集

2024（令和6）年3月22日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社パナックスメディア

福岡市南区玉川町18番6号

